

割安感がある素材株の投資機会に注目

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
愛称 ザ・ディスカバリー
追加型投信/内外/株式

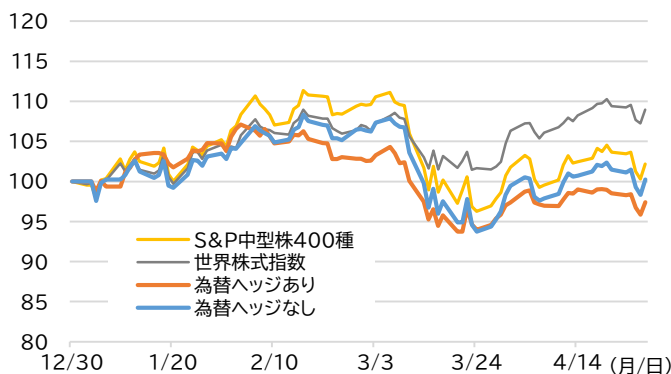
年初来の投資環境と運用のポイント

年初来で世界主要国の株式市場は底堅い推移が続いています。米国の経済状況が懸念されたほど悪化していないこと、インフレのピークアウト、長期金利の低下等に加えて、3月中旬に米地銀に対する懸念が強まった際にも当局の迅速な対応が確認されたことが市場の下支えとなりました。

セクターでは昨年大幅に下落した情報技術が大きく反発しましたが、同セクターにはバリュエーションが割高な銘柄も目立ちます。当ファンドにおいてはエネルギーおよび銀行セクターの銘柄をやや削減し、生活必需品、資本財、素材セクターで有望な銘柄の保有を増やすなど、割高な銘柄は避け、割安かつ長期で着実な成長が期待できる銘柄に着目して運用を行いました。

図表1. 年初来の基準価額と主要株価指数の推移

(2022年12月30日～2023年4月28日、日次)



※2022年12月30日を100として指数化
※指数は現地1営業日前の指数を当日の為替レート(TTM)で円換算
※世界株式指数はMSCIワールド指数を使用。
MSCI指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

当面の株式市場見通し

引き続きマクロ経済に対する懸念が株式市場に大きな影響を与えており、米国をはじめとする世界の主要国がインフレ抑制のためにどこまで利上げを続けるか、その結果として景気減速がどの程度深刻になるかという2点が市場の焦点になっています。足元ではインフレにピークアウトの兆しがみられているものの、高水準での推移が続いており、インフレ抑制を目的としたさらなる利上げが続く可能性があります。また、企業の借り入れコスト増大が様々な経路で影響を及ぼすリスクについて改めて意識されており、バランスシートの健全性に注意する必要があります。そうしたなかで**金融市場のボラティリティは今後も高まりやすく、株式市場においては銘柄選択が非常に重要になると**考えています。

今後の運用方針

運用においては市場の短期的な動きに惑わされず、長期的な企業ファンダメンタルズに着目することがより求められます。足元のような環境では特にバリュエーションやキャッシュフロー創出力に注目する必要があります。それに加えて成長機会と資本集約度の大きさという点も重視して銘柄を分析することが重要と考えます。ボラティリティが高まりやすい今のような局面は、市場が見誤っている有望な銘柄に割安な株価で投資をする好機につながります。そうした好機を活かすため、**インフレへの耐性があり、支出をコントロールでき、結果として将来のキャッシュフロー創出力が高い企業を見いだすことに注力**しています。

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

相対的に安定したリターンで、かつ割安さが残る素材セクター

2022年のリターンをみますと、景気循環の影響を受けにくいディフェンシブセクター(生活必需品、公益事業、ヘルスケア等)はやはり下落幅が抑えられましたが、素材セクターも下落幅は限定的にとどまりました。

素材セクターには鉄鋼、化学品、鉱物資源など、様々な企業が含まれています。一般的には景気拡大期に株価が堅調になりやすいですが、昨年後半から景気後退懸念が高まる中でも、**同セクターは堅実なキャッシュフローや割安なバリュエーションなどを背景に相対的に底堅い推移**になりました。一般的に馴染みのある企業が少なく、ニュースなどでもあまり触れられることが少ない素材セクターですが、市場で過小評価されている隠れた優良企業が含まれており、今後の株価の上昇余地が大きいと考えられます。

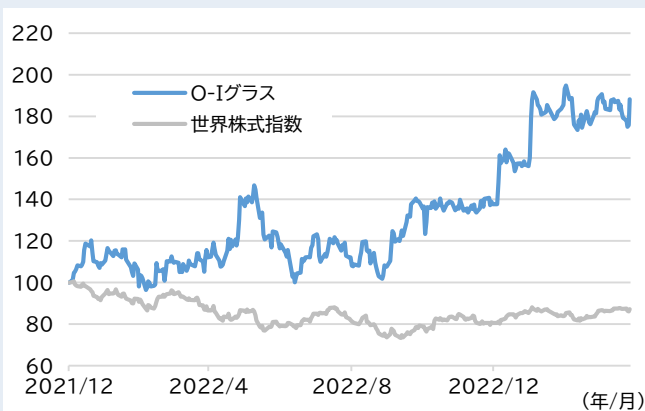
注目銘柄のご紹介

O-Iグラス (米国:素材セクター)

素材セクターで注目している銘柄が、ガラス容器製品のメーカーであるO-Iグラスです。グローバルなガラス容器のリーディング・カンパニーとして、世界各地に工場を展開し、大手飲料メーカーなどを含めて6000社以上の顧客を持っており、ガラス製品に対する様々なニーズに対応できるキャパシティが強みです。**サプライチェーンの効率化やガラス製品の軽量化などの新たな取り組みを進めているため、今後も着実な成長が期待**できます。また、ほぼ永久的に再利用ができるガラス製品のサステナブルな側面が今後市場で注目される可能性もあります。

図表2. O-Iグラスの株価推移

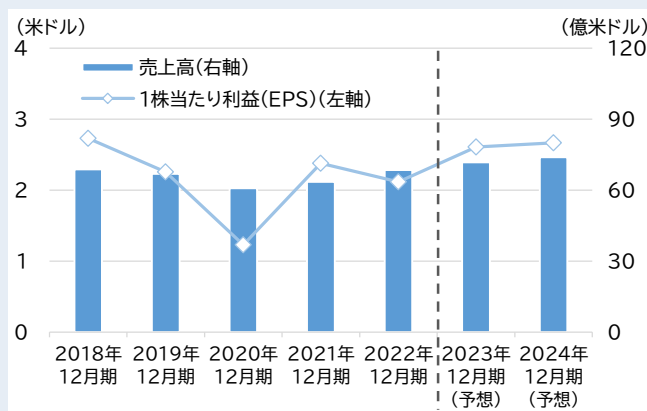
(2021年12月31日～2023年4月27日、日次)



※2021年12月31日を100として指数化
 ※世界株式指数はMSCIワールド指数を使用。
 MSCI指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

図表3. O-IグラスのEPS、売上高の推移

(2018年～2024年、年次、予想を含む)



(図表2、3の出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

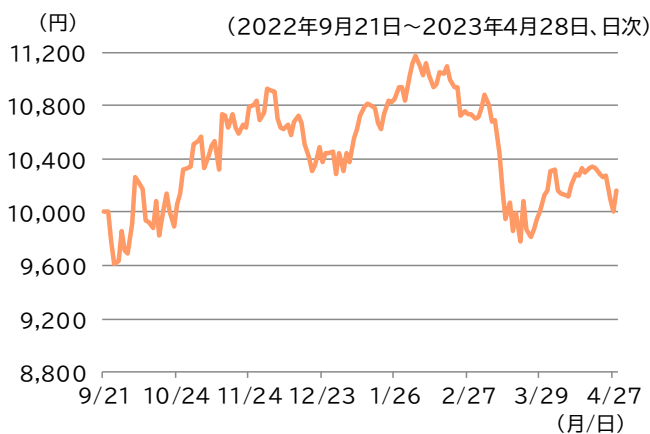
—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
 ■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

運用状況 (作成基準日 2023年4月28日)

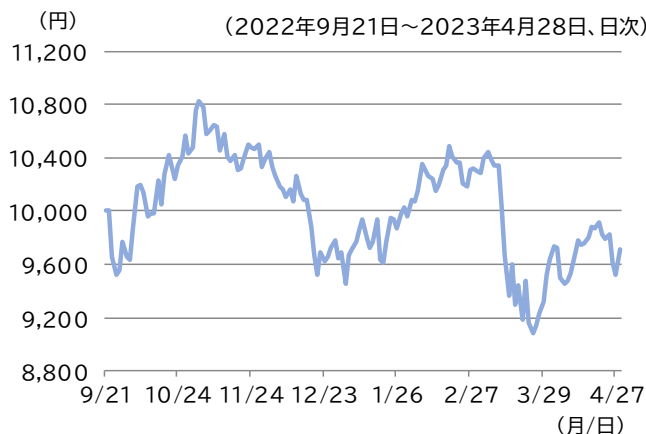
<為替ヘッジあり>

基準価額の推移



<為替ヘッジなし>

基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額	10,166円
残存元本	2,030百万口
純資産総額	2,063百万円

ポートフォリオ構成比率

フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)	97.8%
マネー・インベストメント・マザーファンドⅡ	0.2%
短期金融商品その他	2.0%

ファンドデータ

基準価額	9,709円
残存元本	9,573百万口
純資産総額	9,294百万円

ポートフォリオ構成比率

フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド (為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	98.0%
マネー・インベストメント・マザーファンドⅡ	0.2%
短期金融商品その他	1.8%

※上記の各構成比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

—本資料に関してご留意いただきたい事項—

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。
 ■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンドに関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号:岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。
- ※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
 - 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料 : 購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)
 - 詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料 : ありません。
 - 信託財産留保額 : ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用(信託報酬)
 - : 純資産総額×年率1.265%(税抜1.15%)
 - 運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担
 - : 純資産総額×年率1.98%(税抜1.80%)程度
 - 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。
 - なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料
 - 監査費用 : 純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)
 - 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただけます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただけます。
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

岡三フィデリティ・グローバル・コア株式ファンド(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
 愛称 ザ・ディスカバリー
 追加型投信/内外/株式

販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○			○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)